

3 スタートカリキュラムを実践しよう

(1) 基本的な生活習慣の育成のために

小学校入門期においては、児童が安心感をもって主体的に学校生活を送れるように、「児童の実態」を踏まえた上で、「安全・安心に楽しく」、そして、「先生や友達と豊かに関わり合い」、「様々なことに興味・関心をもって(学習のきっかけをつかみ)主体的に自己を発揮しながら」、学びに向かえるために学習環境を柔軟に構成することが不可欠です。それらの環境が整えられることにより、スタートカリキュラムの実施が円滑に行われ、児童には基本的な生活習慣が身に付いていきます。

〈園と小学校の環境の違いを知る。違っていても児童にとっての不安材料〉

- ・ 園舎や園庭、保育室、プールなどの規模が比較的小さい場合が多い(プールのない園もある。)
- ・ 幼児用に低い設備・備品(ホワイトボード、トイレ、水飲み場、テーブル、椅子)がある。
- ・ 自分専用の机と椅子がない(共用、必要に応じて持ち出し、終わると各自で片付ける。)
- ・ 文房具(はさみ・えんぴつ・紙類)は保育室に置かれ、共用の園が多い。
- ・ 文字情報より絵や図が中心。
- ・ 時間割がない(大体の流れはあるが時間の区切りが柔軟)。

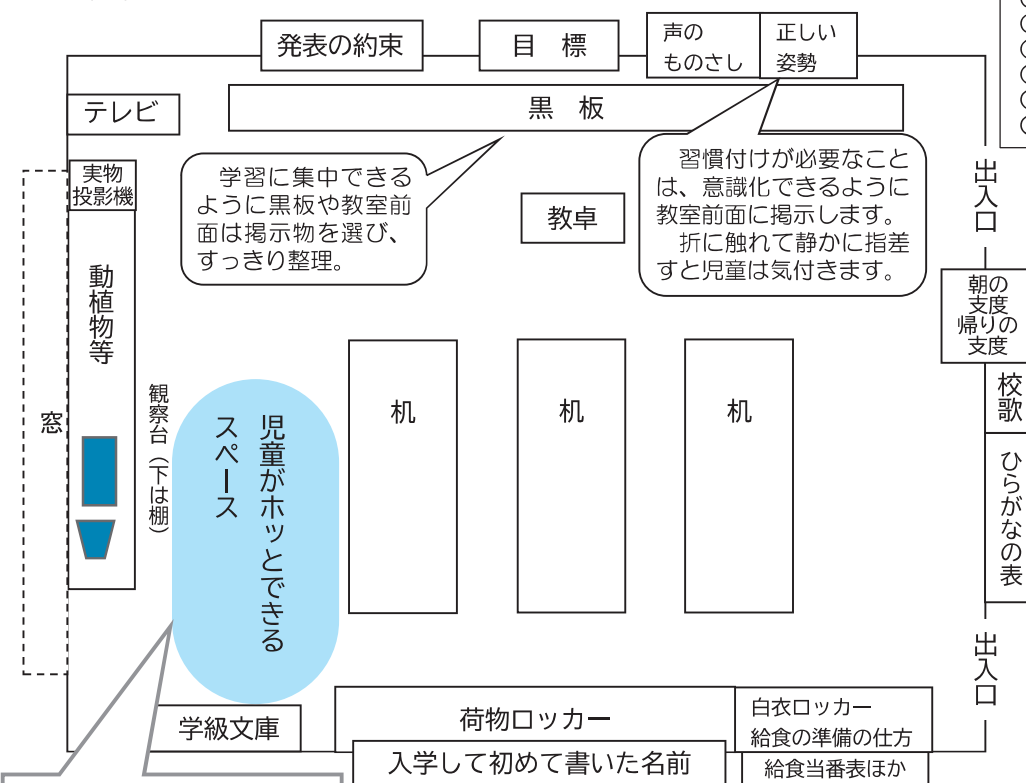


中央に共用の糊や鉢、手拭

小学校の教職員は、これらの大きな違いが入門期の児童にとっての戸惑いや不安の原因となることを知り、児童が安心感をもって生活できるように環境を見直していきたい。

ア 教室環境

(ア) 入門期の机の配置



- 基本的な生活習慣**
—生活習慣・学習習慣—
- 挨拶・言葉遣い
 - 持ち物・片付け
 - 時間を守る・見通しをもつ
 - 話の伝え方・話の聞き方
 - 人との関わり方
 - 約束を守る
 - 給食



分かりやすい掲示



一人一人の本立て

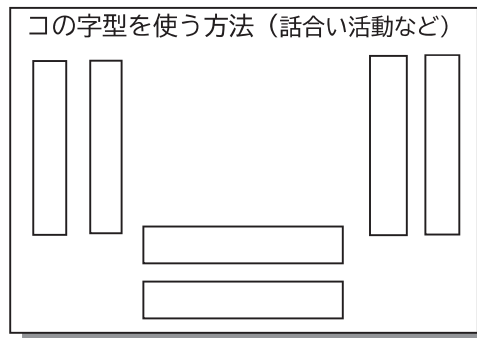
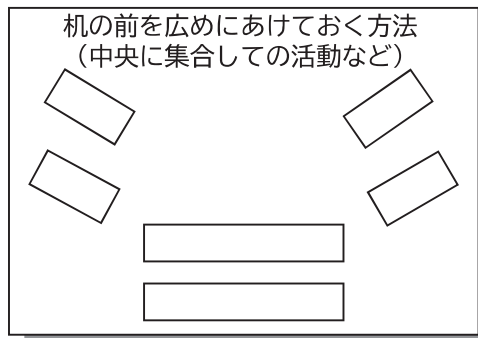


整頓された教室後ろ

教室や多目的スペースの一角に「ホッとできるスペース」を！

このような場は、どの学年にとっても大事です。特にこれまで時間割のなかった1年生にとっては、慣れない環境の中で過ごすストレスの解消として、身近な所に園での生活であったような場が設定されていると安心感をもてます。

★協働的に学べる学習形態



(イ) 児童の目線に立った学習環境の見直し

～初めての「自分の机」：児童の体に合った机や椅子に配慮していますか～

児童の体に合わない机や椅子を長期間使用し続けていると、心身の健康や学習意欲・学力向上に良くない影響を及ぼします。

児童が入学したらすぐに担任自身が児童一人一人の体格に適した机と椅子かどうかを必ずチェックし、調整しましょう。

特に体格の小さな1学期始めや、体格が一回り大きく育ってくる2学期や3学期のスタート時に再度確認し調整することが重要です。

○ 体格に合っていない机や椅子

- ・ 低い机：上腕(肘まで)と机(天板)の間が離れている。その結果、背骨を曲げた前屈みの体勢の継続や、児童の太ももが机下(椅子との間)で押しつぶされている例
- ・ 高い机：上腕(肘まで)が机に垂直に置けず、肘が体側から離れて机の天板に置かれた結果、教科書等と目との間隔が近すぎてしまう例
- ・ 高い椅子：宙に浮いた脚(常時不安定)の例

○ 不適切な机・椅子を継続使用した場合の児童への影響

- ・ 身体への影響…心身の健康・安全面
視力低下 脊椎側弯症
けがの危険性 精神不安定
- ・ 学習への影響
学習規律の崩れ 集中力減退
学力や意欲
- ・ 保護者の学校への信頼…安全・安心・学力

○ 担任が児童の目線で確認・改善を

机や椅子、教室の席順が後方か前方かなど、学習への影響について配慮します。

特に配慮が必要なのは後方の席です。黒板が見えにくい状況がないようにします。

前方の席で学習する児童と変わらず、全ての児童が等しく教育が受けられるよう、どの位置からも見える学習環境かをチェックし、改善していきましょう(黒板ばかりでなく資料や作品、先生の問い掛け、友達の発表なども含みます。)

1学期のスタート時に、「良い姿勢(適正な机と椅子の例)」の掲示物を常掲し、繰り返し指差して気付かせる。

◎適正な例

- 足裏全体が床に着いている。
- 上肢と下肢、上腕と前腕が直角になっている。
- 背筋が伸びている。

(「ちいさな芽」基礎編 P65 参照)

※高すぎる椅子

- ・脚が床から離れ、ぐらぶら揺れている。(揺らしている)

どの児童からも板書がよく見えますか？

テレビなどが障害で見えない板書

黒板に正対できるように両端の列を斜めにするが、床に脚の印などがない場合、児童自身でそろえられずオープン部分までみ出してしまう。

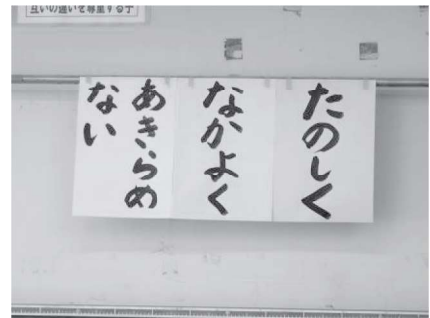
(ウ) 基本的な生活習慣を育成するための分かりやすい掲示物

児童は、小学校入学を楽しみにしてきました。先生の温かい受容の中で、いろいろなことに興味・関心を持ち、新しい生活や学習に前向きに歩み出せるように「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて、幼児期との接続を意識した習慣づくりを工夫していきましょう。

入門期は、規律を守らせることを優先して指示が多くなる傾向があるようです。まずは、教師が指導する規律と児童の主体性(考えさせ納得させて決めていくルールなどの工夫)のバランスをとっていきましょう。先生が常に声に出して指導しなくてよいように、分かりやすい掲示物が必要です。

○ 大きい字で短文に 絵と色を組み合わせて視覚的に

- ・ 1学期は少なめの文字でめあてやその他の掲示をしましょう。
黒板の周囲に長い文章で目標や学校のルールなどが掲示されていることがあります。入門期の児童は、これからひらがなを正しく習います。もちろん書いたり読めたりする児童もたくさんいますが、読むだけで時間がかかり活動が遅れる児童もいます。必要以上に情報を掲示し過ぎないように配慮しましょう。
- ・ 「話し方・聞き方」は、「学習・生活習慣」づくりの土台ともなります。



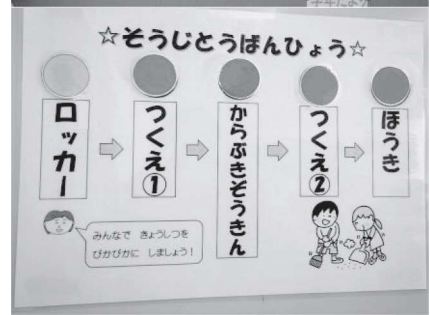
国語科の「話すこと・聞くこと」の目標を基に、全教育活動で意識できるように掲示物を常掲しましょう。

○ 活動の見通しがもてるような表示を

- ・ 1年生になると自分たちで清掃をするようになります。
清掃活動を始める際には、まず学級活動の時間を使って清掃の仕方や役割などを丁寧に指導し、その後の日常の清掃は、担任も一緒に行います。
児童は、幼児期から「共通の目的に向かって、主体的・協同的に取り組む」活動を経験しています。担任は「幼小の滑らかな接続」を意識して清掃の手順を簡単に書いた掲示物を教室の側面か後ろに常掲しておくことで、教師主導から徐々に児童が主体的・協働的に取り組めるようにしていきます。



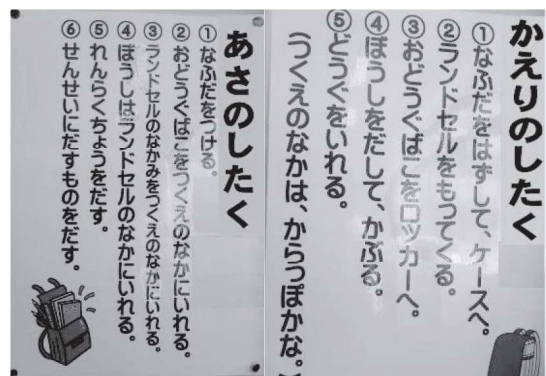
- ※ 右の掲示物の表記について:「ロッカー」は、「ろっかあ」と書く国語の「のぼすおん」の学習で習ったとおりに表せて、実生活に生かせるので、復習としてよいです。ただし、習っていないカタカナも日常的に使いたい場合は、読み方を教えます。



順番だけの表だと早く分かる

- ・ この他にも、給食当番の手順や朝の支度・帰りの支度など、学校にきたらすぐに行う活動や帰りに行う活動など、日々覚えていかなければならない活動があります。

なるべく短文で、(文でなく、単語でもよい)絵なども付け、少しでもイメージをもちやすくします。掲示物を見ながら楽しく主体的に活動することの積み重ねで習慣付けできるようにしたいものです。入門期の情報過多には、常に注意する必要があります。



イ 安心を生み成長・自立を支える人的な環境

(ア) 教職員

先生は大切な環境（特に担任・学年の先生）

- 笑顔で児童と関わっていますか
- 授業中の立ち位置を意識していますか
- 児童と一緒に活動していますか
- 児童の様子を温かく見守っていますか

P107参照



校内体制

- 全教職員の見守り(笑顔で児童に対応)
- 養護教諭・学校栄養職員との関わり(給食・健康診断ほか)
- 専科教員・支援員のサポート(TT体制)
- 各教科等主任との関わり(カリキュラムデザインへの協力)

(イ) 児童・幼児

上級生の助言・補助

- 朝の時間での読み聞かせ等
- 給食準備の補助
- 清掃の仕方のレクチャー

異学年交流活動

- 第2学年と学校探検
- 高学年と遠足
- 上学年と集会活動
- ピクニック給食
- 集団登下校

幼児との交流

- 5歳児と合同授業・給食
- 運動会・学芸会などの行事



「お皿の真ん中に2こずつだよ。」



異学年との交流給食



1年生が5歳児と合同授業

(ウ) 家庭や地域の人々

家庭(保護者)との連携

- スタートカリキュラムの周知・理解
- 双方向での情報発信
連絡帳・電話・学級(学校)便り・保護者会
各種会合・PTA活動

地域との連携

- 夏(秋)祭りなど季節の行事、
バザー、地域子供会など



社会に開かれた教育課程

「社会に開かれた教育課程」の理念に基づき、目指すべき教育の在り方を家庭や地域と共有し、その連携及び協働の下に教育活動を充実させていくことが求められています。

そのためには、各学校の教育課程の編成についての基本的な方針を、家庭や地域とも共有していくことが重要です。

(2) 週ごとの指導計画や時間配分の工夫

週ごとの指導計画を立てる際は、幼児期の遊びを通した学びから小学校での教科等を通した学習に徐々に移行できるようにしていきます。

幼児期と同じように、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうように導きたいものです。

低学年の特性は、心と体を一体的に働かせて遊んだり学んだりすることです。そのため、幼児期の遊びを通した総合的な学びを生かし、直接体験や具体的な活動を通して感性を働かせたり、身近な出来事から様々な発見や気づきを得て考えたりすることを積み重ねていくことが大切です。

入学当初の週ごとの指導計画や時間配分の工夫

① 幼児期の経験から指導計画を立てる。

② 幼児期の生活に近い活動をする。

- ・ 幼児期の総合的な活動による学び ⇒ 小:教科横断的な視点での生活科を中心とする、合科的・関連的な指導計画

③ 弾力的な時間割の設定をする・・・様々な教科・領域での学習（例 P87 参照）

- ・ 短時間(1 モジュール15分で3活動、20～25分で2活動 等)
- ・ 長めの時間(60分・90分など)

生活科を中心とする
合科的・関連的な指導

ア 「幼児期の経験から指導計画を立て、幼児期の生活に近い活動」の例（上記①②）

人形(パペット)を日常的に活用している学級の事例です。

人形は、児童にとって親しみやすく身近な存在です。幼児期にもよく使っていた身近な遊び道具の一つです。心が癒されたり、雰囲気が柔らかくなったりします。

- ・ 人形を入学時の児童や先生とのコミュニケーションを図る手段としたり、学級のシンボルとなるマスコットとして、みんなでかわいがったり話し掛けたりする等の活用法があります（指人形・ペープサート・ぬいぐるみなど）。
- ・ 授業中も児童を認めたり、指導したりするとき（注意したりするとき）や、言いにくいことを言うときにも、人形を通して伝えることで、容易に受け入れられる等の効果が期待できます。



- ・ ○さん、友達に悪いことをしたら、「ごめんなさい」を言わなくちゃダメだよ。
- ・ できないときは、誰かに「手伝ってくれる？」って頼むといいよ。
- ・ みんなよくがんばったね！

【楽しく遊べる人形の活用】

柔軟性のある環境づくり

場の設定、具体物や半具体物・視聴覚教材の活用、教師の言動 等

事例「単元名：バムのおかたづけ」（道徳的価値：片付け・整理整頓）



人形と ICT 活用：児童の掃除の映像を見て人形が感想を言う(身近な映像は興味・関心が高い。)



場の設定：担任の前に集合し、マスコット(A・B)も一緒に話合いに参加する(集中が難しい4・5校時等に効果的)。



教材：ショートストーリーで適切。板書：黒板の文字も短い単語にする(入門期の児童に適切)。



Bさん人形に「振り返り」をする。
書き足りなかった思いを口頭で伝える。

※人形が2体ある場合は両性を。1体の場合は性別の不明確な動物などがよい。
※この時期の児童の文字習得には個人差が大きい。
「自己の振り返り」で、書きたい文章が自分の思い通り書けない児童は、付け足して人形に話すようにする。

担任の言動

- 柔らかく温かな言動
- 1年生に分かる速さで丁寧に
- 認め励ます言葉
- 別の点を褒めながら、改めたい点を素早く直させる話術
- 該当しない児童(家での手伝いの経験のない児童)にも配慮した言葉
- 個々の発言を短くまとめて板書(自分の考えを板書された満足感)
- 学習・生活規律を適宜育成(方法：人形で、促すように、時に語気強く)
- 全ての児童に同じ呼称「～さん」



2人の児童が同時にA、Bへ話す(人形が聞き手だと話しやすい。)



「ぼくはBさんに話したい。」
(自分の思いを話す意欲へ)



「～さんは、どっちの子に話しますか?」(話す相手を選択できる。)

イ 弾力的な時間割の設定

事例:「給食の準備をしよう」(学級活動または生活科)の授業(4月当初)

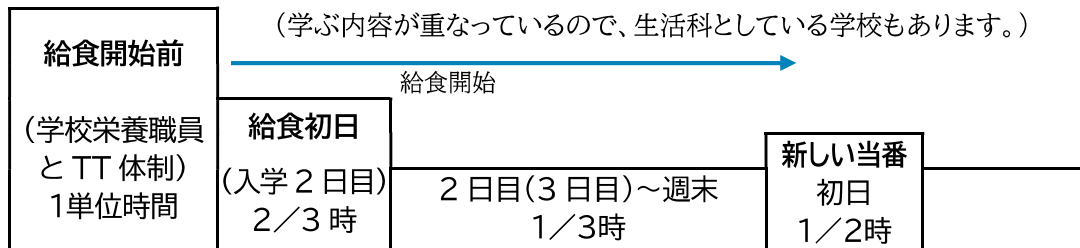
食に関する指導は、身に付けたい「基本的な生活習慣」の一つです。

児童にとって、小学校入門期に難しい活動といえば、教科学習より、給食当番や清掃など(一部の園では、アプローチ期に少しずつ簡単な活動をしています。)、多くの児童がこれまでほとんど未経験であった作業を伴う活動です。ほぼ毎日行う活動なので早くスムーズにできるように習慣化したいものです。

4月当初(実態によっては、5月連休明けまで)4校時後半に、学級活動の時間を設定し、繰り返し分かりやすく指導していきましょう。慌てさせずに仕事をすることやそれらを積み重ねていくことで順序立てて作業を行う力の基礎が身に付き、その後の学校生活でも良い影響を及ぼしていくと考えられます。

(例) 4校時後半の学級活動の時間設定

(学ぶ内容が重なっているため、生活科としている学校もあります。)



- 給食当番の仕事を教える。給食が開始される前に一度は1単位時間全体で指導する必要がある。

- ・ 第1回目の指導の際には、学校栄養職員とTT体制で行いたい。
- ・ 学校栄養職員には、白衣を着る意味、手の洗い方の大切さや、好き嫌いなく食べることの体への影響などについても伝えてもらう。



学校栄養職員と給食開始前の学級活動

- 給食当番は、当番が交代になった最初の日には、白衣の着方、立ったままでのたたみ方や袋に入れてロッカーに収納するまで、仕事の分担や当番表の見方等について、丁寧に指導する。

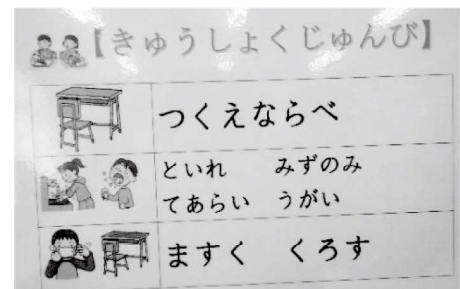
1週間程度で、給食当番が新しく入れ替わる学級が多いようである。従って、1週間後、2週間後に当番をする児童にとっては「初めての給食当番」である(6班あれば、5月中頃まで「初当番」の児童がいることになる。4月2週目、3週目と進んでいくうちに、指導者側は、大分経ったからもう習慣化されただろうと勘違いしがちである。)



「僕は、今日はワゴン当番だ！」

- 当番でないときには、自席で待ちながら、当番児童の活動をよく観察させるとよい(観察だけでも大体覚えてできる児童、実際にやらないと理解が難しい児童がいる。)

- 4校時後半の学級活動として行う活動は、給食当番以外の児童も含めて学級全体で当番児童や手順などを聞き、確認したり質問したりする。



安全：全員が行う給食準備

【「幼小の滑らかな接続」のために行う就学前の情報を踏まえた指導】

幼児教育・保育に携わる保育者は、子供たちが小学校へ入学したら、給食時に「どのような生活習慣を身に付けたり当番活動をしたりしているか」を知り、小学校の指導者は、公立の保育所・幼稚園・認定こども園など、それぞれ園での活動の仕方を知り、互いに情報共有して指導を工夫していくことで接続がより滑らになっていきます。

【就学前（アプローチカリキュラム後半）の子供はこのような経験をしています】

園での食事内容

- 給食を実施している園(皆と同じものを味わう一体感)。
- 外注の弁当給食を実施している園(皆と同じものを味わう一体感)。
- 手作り弁当を持参する幼児(家庭の味を味わう安心感)。



当番活動（役割を果たす達成感や自信：できる範囲でしましょう。）

- 給食当番がある園とない園があります。
- テーブル拭きやお茶注ぎを、当番活動で実施している園があります。
- 給食当番が、エプロン等を身に付けて配膳する園があります。
- 自分の分を個別にトレーに乗せて運ぶ園があります。
- 給食当番が、献立の紹介をする園があります。
- お弁当ボックスやバッグから、お弁当を準備する幼児がいます。
- 給食当番が、「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をする園があります。

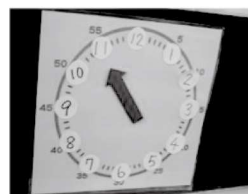


▲エプロンと帽子でお当番

食事時間（皆で食事の前後の挨拶をすることは大切です。）

- 一斉に「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をする園があります。
- 「いただきます」が一斉でも食べ終わり次第片付ける園があります。
- 準備が整い次第食べ始め、食べ終わり次第片付ける園があります。

見
接
通
し
を
立
て
る
表
示



保育者はこのような配慮をしています。

- 正しく配膳できるように、配膳図の掲示や言葉掛けをします。
- こぼすなど失敗してしまったときは、次から失敗しないようにするためにどのようにするか気付かせる言葉掛けをします。
- 献立や食材の名前に関心をもたせるため、給食当番に発表させたり、食事中に「これ、何という食べ物？」など、クイズ形式での楽しい会話をしたりしています。
- 学校給食を意識して、時間内に食べることができるようになっています(例:「長い針が11になったら『ごちそうさま』をしますよ。」)。
- 一人一人の食の状態を理解するために、家庭との連携を、大切にしています(食物アレルギーほか、日々の体調と食欲など)。



6年生がレクチャー



個々の準備の仕方を丁寧に

【小学校入門期の工夫】

- 4月中は、給食の仕方や当番活動、給食の準備や食べる時間、片付けの時間を含め、給食に関する時間を少し長めにとるようにしています(4校時後半に授業として学級活動を設定し、給食の活動開始前に、給食に関する知識や活動の仕方を知ったりする。)
- 学校栄養職員や専科の教師が担任の補助をしたり、6年生が1年生のサポートをしたりしている学校もあります。
- 教師が盛り付けの見本を示し、児童はそれを見ながら盛り付け方を学びます。
- 学びの質や量が、同学年で大きく異ならないように、食育の計画を基に、連携を大切にしながら進めます。

食に関する指導の目標

- ① 食事の重要性
- ② 心身の健康
- ③ 食品を選択する能力
- ④ 感謝の心
- ⑤ 社会性
- ⑥ 食文化に関する理解